

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-3
地域生活交通の確保

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

交通対策課長 田中 浩史

電話番号

0852-22-5898

事務事業の名称	JR利用促進事業	
目的	(1) 対象	JR線を利用する県民や観光客
	(2) 意図	利用しやすいダイヤや運転本数を確保することにより、JR線の利用促進を図る
事業概要	山陰本線、木次線、三江線、山口線の活性化を図るため、各協議会が実施する利用促進事業に対して支援を行う。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	年間利用者数	目標値	6,350.0	6,350.0	6,350.0	6,350.0	千人
	式・定義	県内JR各駅の年間乗車人員の合計	取組目標値					
			実績値	6,350.0	6,204.0			
			達成率	-	97.8	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	1,700	1,700
うち一般財源(千円)	1,700	1,700

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

各線区の年間乗車人数

山陰線 H25:約6,239千人	H26:約5,872千人	H27:約5,910千人	H28:約5,787千人
木次線 H25:約310,000人	H26:約261,000人	H27:約263,000人	H28:約244,000人
三江線 H25:約53,000人	H26:約56,000人	H27:約55,000人	H28:約56,000人
山口線 H25:約95,000人	H26:約106,000人	H27:約121,000人	H28:約117,000人

6. 成果があったこと(改善されたこと)

木次線については、保・幼・小・中学校遠足等助成事業を実施し、13件、225人の利用があった。

三江線については、回数券購入補助事業(1/10補助)により、131,655円の補助実績があった。

山口線については、利用促進ボールペン、クリアファイルを作成・配布し利用促進PRを実施した。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

近年、JR西日本ではローカル線区の列車運転本数が削減されており、県内でも平成25年3月ダイヤ改正により、山口線で削減された。

また、H28の山陰線、木次線、山口線の年間乗車人数はH27と比較して減少した。

②困っている状況が発生している「原因」

自家用車の普及や少子高齢化の進展により、山陰本線、地方ローカル線とも中長期的に見ると利用者数は減少傾向にある。

③原因を解消するための「課題」

県内のJR線について、沿線団体が実施する利用促進事業に対して支援を行うなど、引き続き利用促進に取り組むことが必要である。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

県内各線区とも利用者が減少傾向であることから、更なる利用促進に沿線自治体と協力して取り組んでいく。

また、木次線について、今年度迎える全線開通80周年を契機に、沿線市町と一体となって利用促進に向けた取組みを強化していく。

平成30年4月1日廃止が予定されている三江線については、廃止までの間、県、沿線市町が一体となって、沿線地域のPR、魅力づくりなどの利用促進に取り組む。